

電気通信大学「女性が輝く電気通信大学」

電気通信大学は1学部2研究科で構成される理工系大学であり、主たる研究分野は電気・電子、情報・通信、機械・ロボティクス、材料科学、光・応用物理などである。ここ数年、学部入学者に占める女性割合は増加の一途を辿っており、今年度の入学者においては約11%が女子学生となっている。しかしながら、女性教員の在職比率は6%と低迷しており、平成25年度「女性研究者研究活動支援事業」に採択されたのに伴い、積極的に女性研究者を登用すること即ち教授、准教授を中心に10名程度の女性研究者を増員することを目標に掲げた。女性研究者が増えない背景には、工学分野の研究者に女性が少ないことが挙げられるが、男性研究者が圧倒的多数の環境においてライフイベントへの配慮や支援への理解不足も存在する。こうした状況を改善するために、女性研究者支援室では以下の取り組みを行っている。

【研究・教育活動とライフイベントの両立支援】

- ① 妊娠・出産・育児または介護等に携わり、研究活動の継続が困難あるいは研究時間が十分に確保できない研究者に対し、教育研究活動のアクティビティの低下を防ぐことを目的として「研究支援員配置プログラム」を実施している。平成26年5月から利用者を募集し、現在10名の教員（女性8名・男性2名）が利用している。このうち介護を理由としている者は2名である。研究支援員は11名（女性4名・男性7名）である。利用者の満足度は高いものの、打ち合わせおよび共同作業の時間をもっととりたいなど、改善を要求する内容も書かれており中間ヒアリングなどでより細やかに意見を聴取した上で検討を重ねていく。
- ② 学会やシンポジウムの託児を主たる目的とした託児室を開設した。12月2日に本校で開催する第2回年度シンポジウムから本格的に使用する予定である。
- ③ 病後児保育について、男女共同参画本部と連携し、全教職員にアンケート調査を実施した。アンケート結果を分析し具体的な支援を検討していく。

【意識啓発活動と学内環境の整備】

- ① これまでにトップセミナーを4回、年度シンポジウムを1回実施した。実施後のアンケートからは、感想や要望のほか、この事業に対する期待もうかがえ、トップ層の意識は着実に高まっているものと思われる。12月には東京工業大学、東京農工大学より講師を招き2回目の年度シンポジウムを開催する予定である。また、各学科専攻長に依頼して、外部の女性研究者による学術講演会を開催する予定である。女性研究者を招聘する場合に発生する費用は本事業により支出する。
- ② ニュースレター（年4回）およびリーフレットを発行し、女性研究者支援室のホームページを開設した。活動予定やセミナーの動画を公開して女性研究者研究活動支援事業の周知と理解を促進することが目的だが、研究支援員の申請書をダウンロードできるなど制度利用の簡易化にも役立っている。また、「W-STEM Networking Conference 2014」に共催するなど外部への発信も行い、電通大の女性研究者による優れた研究をアピールするとともに、女子大学院生の活躍を紹介し研究教育機関としての本校の魅力を伝え大学院への呼び込みも行っている。
- ③ 女性研究者同士のネットワークを構築するために、ランチョンミーティングを2ヶ月に1回のペースで行っている。毎回学内の女性研究者の半数ほどが参加し、好評を得ている。普段埋没しがちな女性教員の意見を出し合うことが、研究教育環境の改善に向けた効果的な取組みへと繋がっている。
- ④ 「公募お知らせサービス」を開設し電通大の公募情報を外部の女性研究者に積極的に提供している。

【女性研究者の裾野拡大とキャリア支援】

女子大学院生向けセミナーを1回実施した。女子大学院生向けセミナーは、女子大学院生が専門職もしくは研究者として活躍していく上でのロールモデルの提示を目的としており今後継続する予定である。

【連絡先】

電気通信大学 女性研究者支援室

住所：東京都調布市調布ヶ丘1-5-1 西1号館311号室

TEL：042-443-6737 FAX：042-443-6739

E-mail：ge-staff-ml@uec.ac.jp URL：<http://www.ge.uec.ac.jp/owr/>

女性が輝く 電気通信大学女性研究者支援室



国立大学法人
電気通信大学
Unique & Exciting Campus

研究・教育活動とライフイベントの両立支援

●研究支援員配置プログラムの実施

ライフイベントの発生により、教育研究活動のアクティビティの低下を防ぐことを目的として、「研究支援員配置プログラム」を本学的女性研究者または配偶者が研究者である男性研究者を対象に実施しています。
今年6月から配置し、前期、後期に分けて募集しています。現在、**男性2名、女性7名の合計9名**の研究者が利用しています。研究支援員は男性7名女性4名の計11名で、本学の学生が多いですが、他大学の学生や社会人もおり、研究補助内容はさまざまです。



●談話室 & 託児室開設



●病後児保育アンケート調査実施

	研究支援員(10月1日現在)		
	男性	女性	合計
電通大学部生	1	0	1
電通大学院生	4	1	5
他大学部生	0	0	0
他大学院生	1	0	1
社会人	1	3	4
合計	7	4	11

	申請者(10月1日現在)		
	男性	女性	合計
教授	0	0	0
准教授	1	4	5
助教	1	1	2
特任教授	0	0	0
特任准教授	0	1	1
特任助教	0	1	1
合計	2	7	9

意識啓発活動と学内環境の整備

●ニュースレターの発行(年4回)



●ホームページ開設



●年度シンポジウムの開催

●部局管理職を対象としたトップセミナーの開催

女性研究者を取り巻く研究環境の整備に向けて、学長をはじめとする本学幹部教職員を中心に、支援事業の趣旨を共有し理解を深め、応援いただく素地作りをすることが目的です。

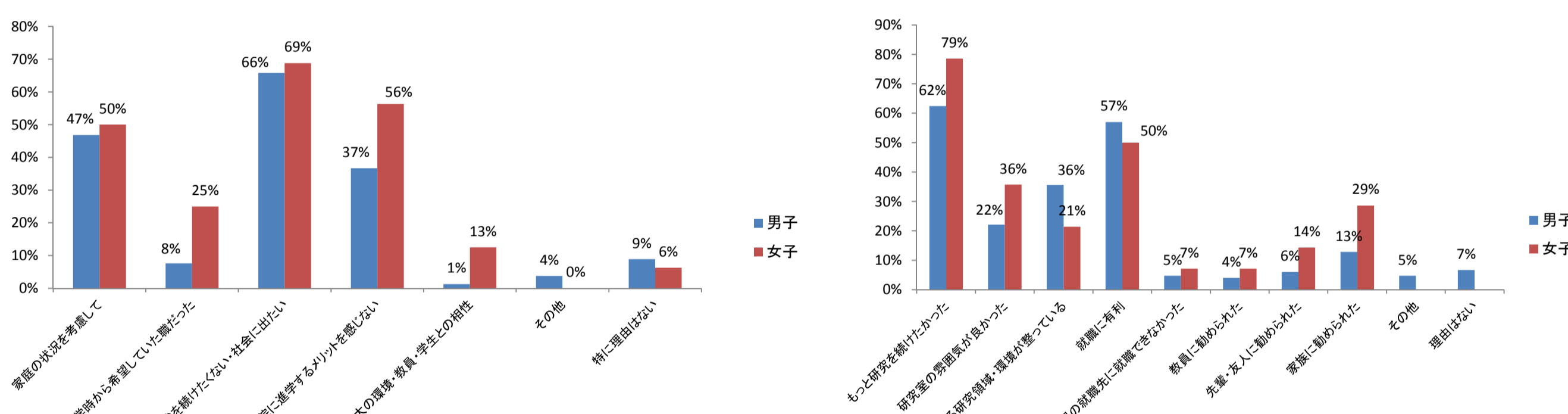


外部講師の基調講演にくわえ、本学の教員もパネルディスカッションに登壇しています。

過去4回実施し、育児、介護をはじめとする多様なライフイベントと研究生活を両立させている教員が実体験を交えた意見を述べることもあり、外部講師・教員・幹部教職員の意見交換の場にもなっています。登壇していない参加者の方々にもより興味深く聞いていただけるように、毎回テーマを変えて実施しています。

●卒業生アンケート

平成26年1月に、大学院への進学・非進学理由を探ることを主な目的として、学部卒業生および大学院卒業生に対し、全学アンケート調査を実施しました。研究室や構内アメニティへの満足度、要望などもたずね、**1421部配布して436部を回収(回収率30.6%)**しました。
大学院に進学を決めた学生は、男女ともに「研究を続けたかった」「就職に有利」が上位を占めました。また、就職を決めた学生は、男女ともに「社会に出たい」という回答が一番多かったのですが、次いで、男子学生は「家族の状況を考慮」、女子学生は「大学院に進学するメリットを感じない」が多い傾向になりました。



●ランチョンミーティングの開催

2ヶ月に1度、女性研究者の交流の場として、ランチョンミーティングを開催しています。女性研究者のみならず、学長を招いたり、関連部署に参加を呼びかけるなど、女性研究者の内部だけではなくさまざまな部署と交流しています。
研究活動はもとより、多様な関心事について話題になっています。本事業の方向性や女子学生を育てていく上での課題などについても積極的に議論がなされており、毎回好評を得ています。



女性研究者の裾野拡大とキャリア支援

●ホームカミングデーUEC女子会の共催

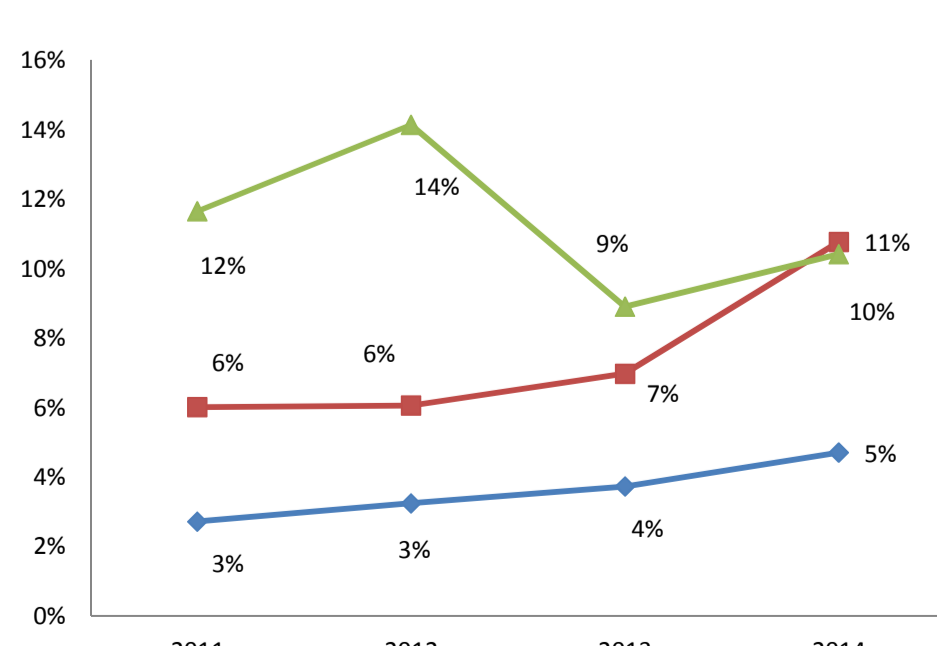
●女子大学院生向けセミナーの開催



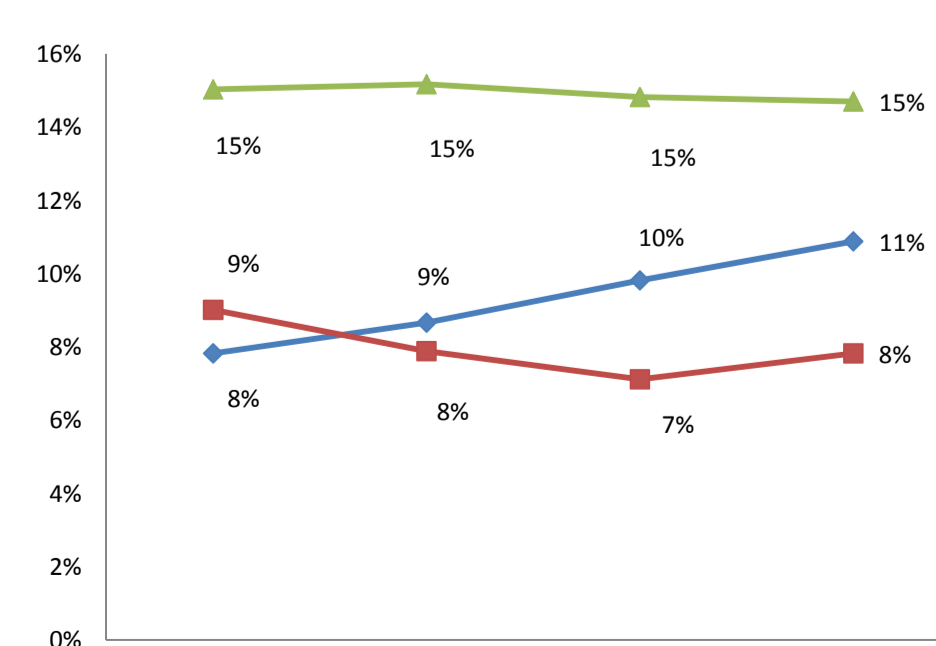
今後の目標

平成25年度に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、『女性が輝く電気通信大学』のテーマの下に活動を始めました。女性研究者をとりまく研究環境を改善して研究力の向上を目指し、女性研究者の研究環境の改善の必要性を周囲に啓発する活動等を学外の諸研究機関と連携して積極的に展開し、本事業の期間終了時(平成28年3月31日)には、教授・准教授を中心に女性研究者が、**10名**程度増員していることを目標にしています。

女性教員比率の推移



女子学生比率の推移



学部生は年々、増加傾向にあるものの、博士前期、後期課程は平行線をたどっています。女性研究者を増員するという目標とともに未来の女性研究者の育成のために、大学院進学への支援も他部署と連携を取り合って、順次、行っていきたくと思っています。